

しゃくやくのもり

縛

約

の

杜

成人指定
R18
未成年の購入
厳禁

芍薬の花が
咲き乱れる参道を行くと
その神社はあつた

たいそう御利益がある
神社だそうで
それほど大きくも有名でも
ないに構わず
参拝者は多く驚いた

自分も友人からの
頼みで願掛けと

もう一つ宮司からの
頼みを聞いてくれと
言われてきた

巫女長と言う女性に
案内され「どうか内密に……」
と一言ありある部屋に
案内されたのだが……

そこに居たのは
巫女装束のまま
縄で縛られた少女だった：

聞けばこの神社では
「心」を奉納するらしい
それも強い
恥じらいの心であれば
ご利益は高い…と


なんでも何代か前の宮司が
そういう趣味の人であり
戯れに巫女を緊縛した所
次々と願掛けが成就したらしく
以来密かに続いていると

つまり巫女舞と同じく
「羞恥の心」を
奉納しているという事らしい

つまり自分の役目は
羞恥心を引き出す「観客」
ということだ

この少女はお勤めは
今日が初めてらしく


私に見られたとたん
耳まで真っ赤になって
泣きそうになり
気の毒に思ってしまった



翌日同じ様に案内され
待っていたのは
また別の巫女だった

いつからこの姿なのか
私が現れた途端
我慢していたのか
縛られ立ったまま
失禁してしまった

白い両腿に伝う液体が
部屋にわずかに
差し込む光で輝き
失礼にも美しいと
思ってしまった…




別の日その部屋に居たのは
驚いたことに巫女長だった

彼女の身分でも
こういう事をするのかと
驚いたが

白衣ではわかりにくい
豊満な胸がくつきりと
分かるように縛られ

私が釘付けになるのを見て
彼女は羞恥とも侮蔑とも取れる
目で私を見つめ返してきた



その日居たのは
初日にいた
初めてのお勤めを
こなしていた巫女だった

片足だけ釣り上げられ
緋袴と襦袢がずり落ち
白く細い脚があらわになる


あの日より進んだ緊縛に
更に顔を真赤にして
羞恥に耐えている姿を見て
「ココの神様は
いい趣味をしていらしゃると」
心の底で思ってしまった

部屋の隅でうつ伏せで
動けない巫女が居た

元々立っていたのか
わからないが
起こしてあげようと
手を差し伸べようとして
止められた

自分は観ることのみ
手を触れていいのは
神様だけ……ということらしい

この縛られた巫女は
神様のものなのだ



別の日に居た巫女も
我慢の末か
すでに失禁していた

床に広がった水たまりを
縛られた状態で
必死に隠そうとしている

ここでようやく
自分の本当の役割が
分かってきたように思えた

ただ観るだけではなく
羞恥心を引き出さないと
いけないのだ

そう思うと
隠そうとしている水たまりを
この目で焼き付けるように
よく見える位置に移動し
巫女の恥じらいの表情を
楽しんでしまった


その巫女は辛そうだった

身じろぎ出来ない様な
格好で縛られ
胸を露わにし
脚も閉じれないのか
下着を丸出しの状態だった

今まで見た巫女と
あまりに違うので
聞いてみると羞恥心は
慣れてしまうもの

そういう時は
次の段階に行くそうだ

この巫女は
巫女装束の上から
縛るだけでは
恥じらいを感じなくなったと
言うことだろうか…



その日は
誰も居なかったので
休日かと思い
境内に居た巫女長に
色々話しを聞いてみた

休みではなく巫女長の
お勤めだったが
人が居なくて縛ったまま
仕事をしているらしい

この巫女長の
生真面目さには敬服する…

その後
巫女長が部屋にいた

柱に括りつけられ
胸を露わにし
巫女の象徴とも取れる
緋袴は落ちかけ
縄がきつく陰部に
食い込んでいた

その後別の巫女に
聞いてみると
今日の願掛けは大変な
モノだったらしい

しかし巫女長が
お勤めをすると
大抵の願掛けは叶うという

彼女は神様の
お気に入りらしい

今日の巫女も
大変なものだった…

胡座の形に縛られ
胸どころか陰部も
丸見えだ

私の気配を感じると
必死で隠そうとするが

どう頑張っても脚は閉じれず
そのまま後ろにひっくり返り
まさしく丸見えの
状態になってしまった

茹でたような
状態の彼女を見て
今日の願掛けは
大丈夫だろうと
思ってしまった…

また片足を釣り上げられ
陰部を丸出しの巫女が居た

その目は
もう放心状態の様で
自分の視線にも気づかず
その秘部からは
止め処なく流れ続けていた


13
今日の願掛けは
大丈夫だろうか…

次の日、
昨日の放心状態の
巫女が居た

陰部に張形を挿れて…

昨日とは違い
私を見るととてつもない
恥じらいの表情を見せた

他の巫女を
確認したわけじゃないが
こう見るとよくある
処女信仰云々は関係なく
大切なのは恥じらいの心を
奉納するということなのか…



最後の日巫女長が
今日は自分の願掛けの分だと
きつく縛られた体で
お勤めをしてくれた

また来る事が
あるのかわからないが
どうせならもつと
大きなお願いをすればよかった

そして、それのお勤めをしてくれる
巫女長を見てみたかった…

倬約の杜

【倬約の杜】
2018/11/25 初版発行
めでいかるカンパニー/川邑司
post@mcompany.sakura.ne.jp